

スマートイノベーションラボ 札幌を活用した国立大学法人北海道大学との連携について ～AIを活用した共同実験(第一弾)を開始します～

国立大学法人北海道大学(総長 名和豊春、以下「北海道大学」と東日本電信電話株式会社北海道事業部(北海道事業部長 高橋庸人、以下「NTT東日本」)は、スマートイノベーションラボ 札幌を活用した共同実験を開始します。

1.背景と目的

北海道大学(大学院情報科学研究院 教授 山本雅人)は、AI映像解析技術を活用した動物の行動解析や手話の自動翻訳の研究を進めています。NTT東日本は、自社保有の通信ビルなどのアセットを活用し、AIやIoT技術の社会実装に向けたPoC(実証実験)環境であるスマートイノベーションラボ 札幌を札幌市内に開設しています。このスマートイノベーションラボ 札幌は、AIの学習モデル作成に特化した専用サーバを配備しAI学習に必要なデータを高速に処理することができます。AI学習・推論に本環境を活用することで研究促進及び技術の実用化による地域活性化に貢献することを目的に、この度北海道大学と共同実験を実施します。

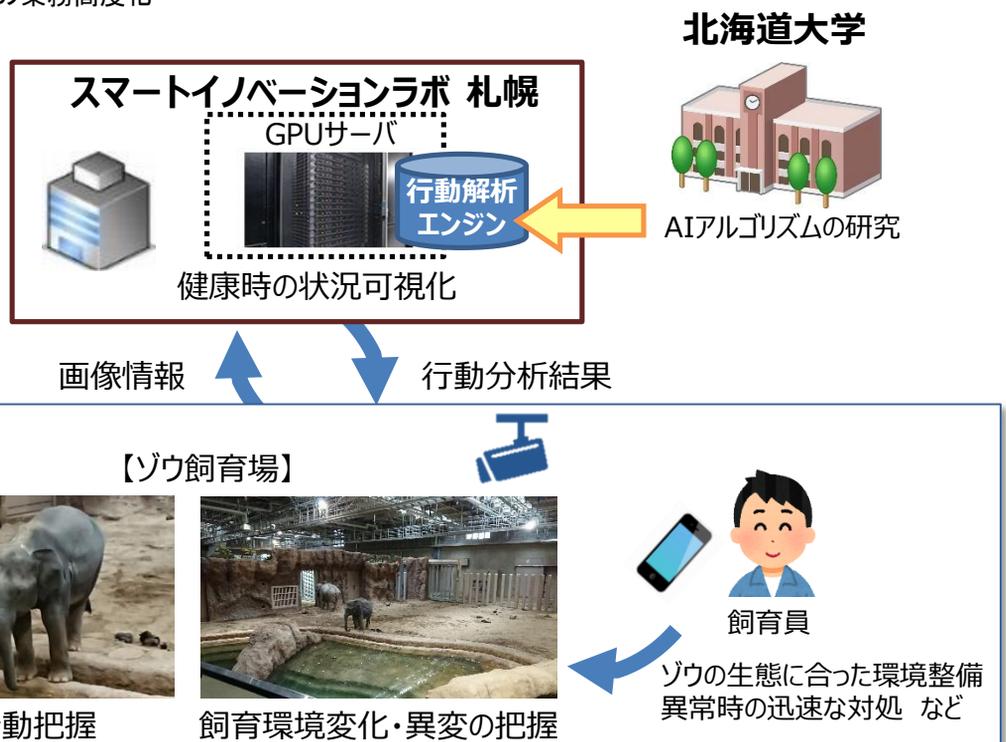
2.内容

(1)動物飼育の高度化

札幌市円山動物園で飼育展示されている動物(ゾウ)の状況をカメラで観察し、画像情報のデータ化により動物の行動をAI分析します。

(本研究は、札幌市円山動物園の協力のもと、株式会社テクノフェイス、さっぽろ産業振興財団との連携によって推進されており、一部は北海道大学と株式会社テクノフェイスとの共同提案により情報通信研究機構(NICT)からの受託研究にも採択されています)

- ・生態分析に有益な客観的情報の収集
- ・異変時の早期把握による迅速な対処
- ・獣医、飼育員の業務高度化



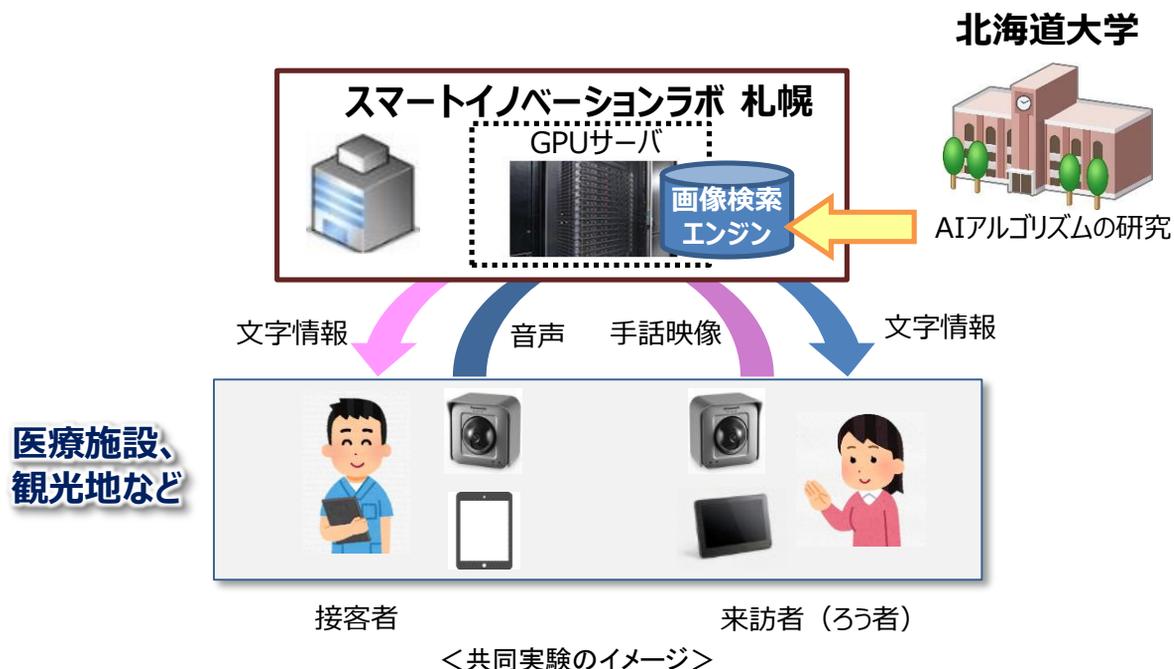
<共同実験のイメージ>

動物園

(2)手話翻訳の自動化

手話が必要とされる病院・薬局・観光地等にカメラを設置し、低遅延かつセキュアな通信環境下でAIによる手話翻訳を行うことで、スムーズなコミュニケーションを実現します。

- ・コミュニケーションの充実
- ・病院、薬局、観光地等における手話要員確保等の負担軽減



3.共同実験開始時期

2020年4月

4.各社の主な役割

＜北海道大学＞

- ・AIアルゴリズムの研究
- ・実証フィールドの検討

＜NTT東日本＞

- ・AIサーバ環境(スマートイノベーションラボ)の提供
- ・低遅延かつセキュアな通信環境の提供

5.今後について

共同実験を通して、AIの認識率の向上および、実用化に向けた効果や課題の抽出を図るとともに、ネットワークを活用し多くの方にご利用いただけるサービスを実現することで、地域課題の解決に貢献していきます。